

高瀬川だより

NPO法人京都高瀬川繁栄会報
編集人 田村佐起三

〒六〇四一八〇〇一
京都市中京区木屋町通三条上ル
電話 (〇七五) 二二二二・一八二八

《安定感ある割烹級の料理と闊達さで魅せる大人の「食堂おがわ」家庭画報誌》

開店から十年、黒板に書かれた二〇種ほどの料理はほぼ固定されています。「どなたにもわかりやすく自分がおいしいと思うものだけを食べてほしい」と主人の小川真太郎さん。ぐじ(甘鯛)の塩焼きや酒蒸し、出汁巻きなどシンプルながらきつちりと手間をかけた品々は「また、ここでこれを食べたい」と思わせるものばかり。大きな松のまな板前に立ち、カウンターの端にまで気を配って、ときに軽妙な会話を客と交わす小川さん。人柄もまた多くの人を惹き付けます。比較的予約が取りやすくなるのは夜八時以降です。
私は木村英輝(立面絵師)さんに紹介戴き通っています。小さな焼いたお餅の中にカラスミが!海鼠腸の酢の物が超薄味で絶品!お連れした方全員が彼の工夫有るお料理を食べたいと再訪問を希望《74歳の誕生当日は、このお店で》

京都国立近代美術館 6月14日〜7月28日 《トルコ文化年2019トルコ 至宝展チュリリップ宮殿 トプカプの宝》

アジアとヨーロッパにまたがる交易の要地であるトルコは多様な文化を受容・融合し、比類ない美を育んできました。本展ではスルトンの宝物をはじめトプカプ宮殿博物館が所蔵する貴重な宝飾品や美術工芸品をおして花々とりわけチュリリップを愛でた宮殿の生活、20世紀初頭まで数百年間にわたり栄華を極めたオスマン帝国の美意識や文化、芸術観を紹介します。また、オスマン帝国のスルトンと日本の皇室の交流を示す品々の他、明治期の日本美術品を里帰りさせるなど両国の友好関係にも光をあてます。約170点の作品を通してトルコの歴史、文化、美を愛でる国民性をより深く理解する機会となれば幸いです。

私の本棚 おすすめの一冊 粉川 剛

《「消費増税」は嘘ばかり / 高橋洋一著》

消費増税は必要なのか? 元財務官僚の筆者が消費増税論者の「嘘」を論破。景気悪化をもたらす消費増税は不要と説く。消費増税の根拠として「日本は一千兆円の借金を抱えており財政は破綻寸前。財政再建のために消費税を増税するしかない」と言われて久しいが本書によれば日本は負債も多いが資産も多い。資産から負債を差し引きすると日本の財政はG7諸国の中カナダに次いで2番目に健全であり今後5年以内に財政破綻する確率は1%未満である。また「少子高齢化で社会保障の財源が足りないから消費増税するしかない」というロジックには日本の年金、医療、介護は税ではなく「保険方式」で運営されており社会保障目的の消費増税はおかしいと指摘。財務官僚は将来の天下り先の確保のため、財界は社会保障の企業負担増加を阻止するために消費増税を叫んでいると筆者は糾弾する。

土口哲光和尚の説法

《鳩を飛ばす》

刑務所にある隠語で「鳩を飛ばす」というのは、受刑者同士で、どうにかして他の工場の知り合いの受刑者に伝言を伝えてもらったりすることを言う。私は、大阪刑務所教誨師澤田秀丸師より戴いた私信をご本人の了解を得ずして伝えたい、気持ち押さえがたく、北海道の旭川刑務所教誨師阿部真猛師(高野山真言宗)の手許へ「鳩を飛ばす」内容は「阿部先生には、大阪から真宗大谷派旭川輪番に赴任して旭川刑務所教誨師を勤めた節、右も左も分からない者を温かいお人柄の包容力で指導されました。同宗派の者よりも思い出深い先生です」。すると間もなく阿部師から「澤田先生はいつもニコニコ、暖かみのある方で、今も嬉しく思っている」と、鳩が帰ってきた。

季節の家庭料理 田村 真紀

《六月 オクラのビーフロール・梅おろしソース》

オクラは食物繊維・ビタミン・カリウムを豊富に含みます。整腸作用やコレステロールを排出する作用があり、便秘やむくみ予防にも効果的です。
《作り方・四人分》
牛もも肉三百グラム・オクラ十六本・青じそ八枚・塩コショウ適宜・揚げ油
衣(小麦粉・溶き卵・パン粉各適量)
梅おろしソース(大根おろし一カップ・梅干しをペースト状にたいたいたもの大匙二・醤油大匙二)
オクラを塩でこすり洗いし、さつと茹で、へたを切る。牛肉を広げ軽く塩コショウし、青じそ、オクラ二本を載せ、くるくる巻いたものを八本作る。衣をつけ中温でカリッと揚げる。半分に切って器に盛り付け、梅おろしソースを添える。

つれづれの記 山崎 辰巳

《観光公害からの脱却を》

バブル崩壊、阪神・東日本大震災、少子高齢化、携帯・スマホといったキーワードが思い浮かぶ平成は、それまでの経験値では測れない様々な想定外のできごとにより遭遇した後、今、新たな令和の時代を迎えた。
そんな中、京都に視点を絞れば、旅行者の増大とホテルラッシュの渦中で想定外の観光公害に見舞われている。
人気スポットはスマホを手にマナーの悪い旅行者でごった返し、キャスター付きの巨大旅行ケースがバスの中やメイン道路を狭め、たしなみのある街の姿が一変した。
行政や観光従事者は、こうした実態を直視し市民の声も反映させて、秩序と節度ある街にするための改善策を講じることが急務だ。